

令和5年度（2023年度）宗谷地域・職域連携推進連絡会 開催結果

概要

- 1 開催日時 令和5年（2023年）11月29日（水）15：00～17：30
- 2 開催場所 宗谷総合振興局2階会議室
- 3 開催方法 対面及びオンライン（Zoom）
- 4 参加団体
 - <職域> 稚内労働基準監督署、JA東宗谷、JA北宗谷、JA南宗谷、稚内機船漁業協同組合
 - <地域> 稚内市、猿払村、浜頓別町、中頓別町、枝幸町、豊富町、礼文町、利尻町、幌延町
 - <関係課> 宗谷総合振興局産業振興部商工労働観光課
- 5 内容
 - (1) 協会けんぽ北海道支部の健康づくり事業について
説明者 全国健康保険協会（協会けんぽ）
北海道支部企画総務部企画グループ グループ長補佐
 - (2) 宗谷地域の健康状況について
説明者 事務局
 - (3) 地域職域連携推進事業の趣旨と進め方
説明者 事務局
 - (4) 地域・職域連携の取組紹介
 - ア 農協巡回ドックにおける地域・職域連携について
説明者 枝幸町保健福祉課保健予防係 主任
JA宗谷南管理部管理課 課長補佐

【概要】

- ・農協巡回ドックは主に農協が運営する健診で、平成11年度から町が関わるようになって既に20年以上も連携が続いている。農協組合員（国保加入者）の受診率は新型コロナウイルス感染症の影響で低迷した年もあったが比較的安定しており、令和4年度は農協組合員（国保加入者）の約6割が受診している。町で実施している集団健診の中では、1番受診率が高い特定健診となっている。
- ・実施体制や役割分担は、4月の巡回ドック実施に向けて2月頃に旭川厚生病院、JA宗谷南、町で健診体制等について打合せを行っている。
- ・農協組合員（国保加入者）に対する事業周知や予約管理は農協職員が実施しており、組合長の声かけや、酪農業特有の業務時間や体制に合わせた健診予約の調整など、細やかなスケジュールリングを行っており、年に1度の受診が定着している。

イ 礼文町健康づくり連携協定～官民一体の健康の島づくり～

説明者 礼文町保健課保健推進係 係長

【概要】

- ・「生涯にわたり元気で働く人が多いまちづくり」を目的に礼文町健康づくり連携協定を実施。連携協定のメリットは、1日で最も長い時間を過ごす職場単位で仲間と一緒に出来ることと、町の保健師・管理栄養士が10項目の取組（禁煙対策、学習会等）の内容から、その職場に合わせたオーダーメイドの関わりができること。いずれは町全体の健康増進に繋がると考えている。現在4事業所と連携協定を締結。
- ・取組の1つ「食を通じた健康づくりの取組推進」では『食 Vege Health+』を実施。町民の野菜摂取量が少ない等の食の課題があり、町の管理栄養士が作成したメニューを取り入れたお弁当を町内のお弁当配達事業所とコラボし販売・配達している。
- ・食という1番身近で取り組みやすい話題をきっかけに他の健康づくりへの波及効果を期待している。将来的には、事業所等が自ら主体的に取り組み健康づくりに取り組んで欲しい。

6 意見交換

司 会：事前調査にて市町村等の取組をご報告いただいております。発表いただいた市町村以外の皆様からも地域・職域連携の取組状況や地域課題等について教えてください。

浜頓別町：枝幸町とやり方は異なるが、同様にJA（農協）と協力し巡回健診ドックを実施している。商工会には、国保加入者に健診結果の提供をお願いする案内通知に協力いただいている。企業コラボでは、町内の郵便局が「がんを知る」をテーマに取り組みをされた際に、「町のがん検診日程表・受診率」を町民に案内している。昨年度も第一生命から依頼があり、がん検診の周知や受診率等を掲載したチラシを作成。特別何か実施していることは無いが、提案や依頼があった際には連携して実施しています。

利尻町：以前、脳血管疾患の発症者が多く、国保加入者の特定健診受診者の中で血圧180mmHg以上の方に向けて重症化予防プログラムを行い、町と病院が連携しながらサポートを実施し、最近発症者数が少なくなってきた。ただ、本日の協会けんぽ加入データを拝見すると高血圧の方が多く、町全体として考えるとまだまだ課題が残されていると感じた。町と企業との連携は、国保の特定健診に合わせて企業職員も受診できるよう連携している。若年者のメタボ対策では、国保加入者のメタボ率が40%、40歳～64歳に限局すると46%。若い時からのメタボ対策で18歳から健診受診可能にしており、希望者には保健師が訪問で保健指導を実施している。今、国保加入者対象に実施している対策が、次、協会けんぽ加入者に繋がってほしいな～と町（保健師）で考えているが、実際どうするか？までは、話ができていない状況です。

協会けんぽ：協会けんぽデータに係る情報共有とお願いがあります。

利尻町が国保の健診会場で企業職員の健診受診を可能にしていると伺い、各自治体にすぐお願いしていることで、国保の集団健診会場で協会けんぽ加入者の扶養家族の特定健診の受入機会をつくっていただき、更には特定健診&がん検診を一緒に受診できる体制をつくっていただくと、町のがん検診受診率の向上にも繋がると思います。住民がワンストップで健診を受けられる環境づくりをしていただきたいと思いますので、是非、御協力をよろしく申し上げます。

KDB Expanderについては、国保連合会に協会けんぽの健診結果・レセプトデータを

提供しているが、保険者が外部にデータを出すときは完全匿名化をしており個人追跡ができない仕様になっているため、対個人ではなく、市町村全体の健康状態の把握ができるものになっているので、活用をお願いします。

事務局：健康事業所宣言の内容を教えてください。周知方法や登録のネックになっていること、稚内管内で登録している事業所がわかれば教えてください。

協会けんぽ：健康事業所宣言は都道府県毎に審査方法等が異なっており、北海道支部では、協会けんぽに加入している事業所で、「健康経営の推進」「従業員の健康づくりに取り組んでいきます！」と宣言した事業所がエントリーシートを提出していただくもの。北海道支部は、完全な手上げ方式なので事業主が「取り組みます」と宣言いただければ、事務処理が終了次第すぐに認定書を発行しています。今年の秋は、事業所に新規登録勧奨を行い、現在、100軒以上の事業所に認定書発行をお待ちいただいている状況。登録事業所の要件には、特定健診受診率100%、特定保健指導の実施率40%以上、の数値目標を去年から掲げています。登録のネックになっているのは、特定保健指導の実施率。従業員が特定保健指導受診の拒否や日程が合わないなど、最終的には個人の意思を尊重するため難しいところがあります。ただ、トップダウンで受診促進を図る社長さんの取組や、ICTを活用した保健指導方法など環境整備も整えている。

稚内市のデータになるが、協会けんぽ加入企業763件。うち宣言事業所（8月時点）14件。

稚内市内には、更に経済産業省の「健康経営優良法人」の認定を受けている事業所もある。地方になればなるほど、「あの会社がやっているならうちの会社も」といった意識が強いと感じるので、事業主の声を横に広げていけるよう商工会議所や商工会からも発信していただきたいと思っています。

稚内市：ゲートキーパー養成では、市内企業とがん検診受診率向上を目指し啓発を実施していた。コロナ禍では市民に感染症対策、その他口腔の啓発に協力いただきチラシ配付、店舗のお客様向け啓発等を実施していただいていた。今年は、市の自殺対策計画で若い男性の自殺が多い傾向があったため、事業所と協力してメンタルヘルスの推進を図りたいと考え、今まで協力してくださった事業所に声掛けしたところ合意が得られたので今年度中にゲートキーパー研修を実施する。

配付資料に労働基準監督署の取組として「メンタルヘルス対策に取り組む事業所を80%以上とする」と記載されており、どのような取組を推進しているのかお伺いしたい。

稚内労基署：添付資料に「第14次労働災害防止計画」という5か年計画がある。そこに定める目標に「メンタルヘルス対策に取り組む事業所を80%にする」となっています。実際、当署としても手探りのところはあるが、まずはストレスチェックをしていただくことかと。小規模事業所でも助成金制度があるので利用を薦めたり、まず第一歩として、メンタルヘルスの担当者を決めることを指導しています。逆に、我々も様々な説明会を開催しているが、『メンタルヘルス対策は何をやれば、やったことになるのか？』という事業所側の皆さんが困っているところがあるので、こちらとしての課題と捉えている。当署としては、まずは事業所ごとにメンタルヘルス担当者を決めていただき、担当窓口を作っていただきたいと考えています。

中頓別町：町内企業に保健師が出張し健康相談を実施していた経緯があった。現状は、消防署や建設協会に健康相談を実施している。先ほど話題になったKDB Expanderについても、町内の協会けんぽ加入者（500名弱）の個人データはわからないにせよ、協会けんぽデータをきっかけに保健師が企業に足を運び、健診結果を個人個人に見せていただき、健康相談に繋げていきたいと思っている。町長も、「国保データは人口の3

割程度、国保データだけでよいのか？町民全体をみることに重要だ」と気にかけている。
今後は、KDB Expander の活用を進めていきたいと考えています。

幌延町：運動教室等を夜間帯に実施していることに加え、健康増進計画に「野菜を多く摂ること」を目標に掲げているため、夜間帯に働く世代を対象にした料理教室・野菜に関連した健康講話を開催しています。今年度は、メンタルヘルス対策として、町で「心の健康づくり講演会」を数年振りに開催した際に、各事業所を訪問し参加を促したところ、日中帯だったが、数力所の企業から参加くださいました。農協ドックの健診は、幌延町でも取り組んでおり、若い30代が受診していると良い面もあるが、健診時期が5月で、結果還元の時期が農繁期で介入が難しく、特定保健指導の実施に結びつかない課題がある。

J A 宗谷南：ノー残業デイに週イチで取り組んではいるが、なかなか上手くいかず…。
今、検討中なのは、J A 東宗谷が取り組んでいるインフルエンザ予防摂取の助成や、今後どうなるかわからないがコロナワクチン摂取の助成を取り入れていきたと思っており、全額とはいかないが半額助成でもできたらと考えているところです。

J A 東宗谷：人間ドック個人負担助成やインフルエンザ予防摂取の助成は、受診者増加を目的に数年前から取り組み始めました。人間ドックは、基本は地域の巡回ドックを受診されているが、年齢を重ねていくと『もう少し、詳細に自分の身体の健康を知りたい！』という方が増えて、厚生病院に受診希望する方が増加したので人間ドックの助成を開始し、人間ドック希望者はほぼ全員受診している。インフルエンザは、1人が感染すると職場内で感染拡大してしまうので、なるべく予防して欲しいと考え、助成を開始しています。

みなさんに質問ですが、巡回ドックや人間ドックは全員受診しているが、再検査になった場合、再検査を受ける方がすごく少ない。どのような周知案内、働きかけを行うと気持ちが変わるのかなど、みなさんはどのような取り組みをされているか教えてください。

猿払村：再検査についてとなると…非常に難しいなと思います。村で健診受診されている方だと、医療機関が村には内科しか無いので、例えば肺がん検診だとCT撮りに村外病院に行く必要があるし、再検査する場所も遠方に出向かなくてはならないことがあるので、どこに行ったら良いかなどの相談を受けるようにしています。働きながら、遠方や旭川方面に再検査受診しなければならないというのは課題だと感じています。がんで亡くなる方も多いので、内科は近隣病院で対応可能だが、特に婦人科系の検診は受診病院の相談は非常に多いです。

豊富町：再検査については、国保加入者ですと、健診結果を返す保健指導の際に『いつ頃、再検査して欲しい。』と予定を説明し、時期がきたら手紙でお知らせしている。当町も猿払村と同様に専門の医療機関が町内に無いため、町外受診をせざるを得ないのは再検査の受診率に影響しているかなと思っています。

本日参加して、協会けんぽの検診結果データを拝見し、宗谷全体、豊富町の協会けんぽ加入者の検診データが少ないのがよくわかりました。国保の健診受診率が伸び悩んでいることも豊富町の課題になっているが、協会けんぽから抜けて退職後に国保に移動してきた時に、一体どういう状況になっているのだろうと心配になったところです。企業とのコラボは実施できていないところなので、事業所健診を受ける中でデータ提供いただけるような体制を整備していきたいなと思います。協会けんぽの扶養者健診は、子育て世代や主婦層に働きかけて町の集団健診で受入しており、年々、扶養者の健診受診率は上がってきていると感じているところです。

事務局：ご発言いただきました皆様ありがとうございました。予定時間をオーバーしてしまいました。最後に労働基準監督署から情報提供をお願いします。

稚労基署：添付資料をご覧ください。

「北海道冬季ゼロ災運動」ということで、宗谷管内でも冬型の事故が発生し、最も多いのが転倒災害になっている。路面が滑って転ぶのが多い。今回の会議に繋がる項目としては、「第14次労働災害防止計画」の中で転倒災害の防止に係わって「骨粗鬆症検診」の受診を勧めるというのが全国で進めるというのが出てきている。というのも、転倒災害は受け身が取れなくてケガをすることが多いのですが、年齢を重ねた方は受け身が取れたのにケガをすることがある。例えば、転んだ時に手をちゃんと着いたのに、その手を骨折する等。そこで、まずはご自身の健康や身体の状態を知ってもらうために、骨粗鬆症健診を受けてもらうという方針です。そこで、市町村が実施する「骨粗鬆症健診」を労働基準監督署も受診勧奨（促進）するという取り組みが出てきますので、両方で連携を図ることになろうかと思しますので、よろしく願いいたします。

事務局：本日、皆様からいただいた意見を参考に次回連絡会開催に活用させていただきたいと思っております。次回は令和6年度を予定しておりますので、次年度もご出席賜りますよう協力をお願いいたします。

以上